

第 28 回 YGN 若手勉強会

原子炉の「廃止措置」

— 課題と現状×廃炉ビジネス —

主催： 日本原子力学会 若手連絡会

来る 3 月 18 日（土）、日本原子力学会 若手連絡会（YGN）は、「原子炉の「廃止措置」— 課題と現状×廃炉ビジネス—」と題する勉強会をオンライン開催致します。

原子力施設の廃止措置は、約 30 年という長期スパンで実施されるメガプロジェクトであり、我々若手が主体的に取り組んでいくことが求められます。具体的には、原子炉施設の操業終了段階からの準備に始まり、解体等の計画を記載した廃止措置計画の作成と認可取得、使用済燃料の取り出しと管理、放射性物質で汚染された機器や施設の除染と解体、発生する放射性廃棄物の保管及び処分、最終的な敷地の再利用に向けた整備まで、これら全てを「プロジェクト」として計画された期間内で達成することが求められます。

日本では、福島第一原子力発電所の 6 基、もんじゅ、ふげんを含めて計 26 基が既に廃止措置段階に移行し（2022 年 8 月現在）、2020 年代半ばには原子炉本体の解体が本格化する見通しとなっている一方で、管理区域内の解体撤去工事で発生する「解体物」の行先が決まっていないという大きな課題が残されています。この「解体物」には、いわゆる放射性廃棄物だけでなく、放射線防護の規制対象から外された「放射性物質として扱う必要のないもの（以下、クリアランス物）」も含まれます。クリアランス物は原子炉施設の外で再利用が可能であるものの、社会的に認められるようになるまで、原子力事業者等の利用に限定するという方針がクリアランス制度導入時から現在まで継続しています。持続可能な社会を目指すためには、出来る限り再利用・再使用の道を拓き、環境負荷を低減することが求められます。

本勉強会では、廃止措置の専門家をお招きし、廃止措置を取り巻く国内外の動向も踏まえつつ、「廃止措置とは何か」という基本的な部分と廃止措置の課題である解体物の行先に対して福井県が取り組んでいる具体例について丁寧にご講義いただきます。また、廃止措置関連業務に携わっている方も、そうでない方も、廃止措置について一度学んでみませんか。

— 記 —

【日時】

2023 年 3 月 18 日（土）13:00 ～ 16:25（12:45 よりアクセス可能）

【場所】

オンライン（ZOOM： お申込み後にアクセス情報をお送りいたします。）

【講師】

柳原 敏 氏（福井大学附属国際原子力工学研究所 客員教授）

- 講師プロフィール：1976年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本原子力研究所に入所、反応度事故時の燃料挙動に係る研究、JPDR 解体プロジェクト、バックエンド対策の企画運営等に従事。福井大学特命教授を経て現職。主な研究分野は、原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理処分。

浅原 章 氏（福井県庁 地域戦略部 電源地域振興課 嶺南 E コースト計画室 主事）

- 講師プロフィール：福井大学大学院工学研究科博士後期課程修了（廃止措置工学研究室）。2020年より福井県庁に入庁。もんじゅサイトの新試験研究炉計画に関する関係機関との調整や、原子力リサイクルビジネスに係る実現可能性調査等、嶺南 E コースト計画の推進に関する業務に従事。研究分野は事故炉の廃止措置。

【参加費】

無料

【対象】

原則として、39歳以下の若手社会人・学生が対象です。

- ・文系理系/専門分野問わず、お気軽にご参加ください。
- ・原子力学会の会員である必要はございません。

【定員】

100名

- ・先着順です。
- ・お申し込み多数の場合、原子力学会会員を優先させていただきます。

【プログラム】

- | | |
|-------------|--|
| 13:30～13:35 | 開会・趣旨説明 |
| 13:35～14:20 | 講演1（柳原 敏 氏）
「廃止措置の課題と現状 - 正の遺産を次世代へ」
（講演45分＋質疑15分） |
| 14:20～14:25 | 休憩（5分） |

- 14:25 ～ 15:10 講演 2 (浅原 章 氏)
「福井県における廃炉ビジネスに係る取組み」
(講演 15 分+質疑 15 分)
- 15:10 ～ 15:20 休憩 (10 分)
- 15:20 ～ 16:20 フリーディスカッション (質疑応答込み) (60 分)
- 16:20 ～ 16:25 閉会

- *会終了後に、講師陣を交えたオンライン交流会を予定しております。
- ・ブレイクアウトルーム機能で、1 グループ 4 名程度で交流して頂きます。
 - ・1 セット 15 分で、4 セット (1 時間) 程度検討しております。
 - ・ランダムにグループ分けさせていただきます。
 - ・入退場自由で、1 セットのみの参加も可能です。ぜひご参加ください。

【申込方法・問合せ先】

本勉強会への参加を希望される方は、3 月 16 日 (木) 17 時までに以下サイトよりお申込ください。

お申込用フォームサイト <https://forms.office.com/r/falXihRivN>

*アクセス不可の方は下記問い合わせ先までご連絡ください。

日本原子力学会 若手連絡会 奥出陽香 (関西電力)

メール : okudeharuka506@yahoo.co.jp

【備考】

□ YGN 若手勉強会では「チャタム・ハウス・ルール」を適用し、参加者相互の信頼関係に基づく率直な議論を行います。本趣旨にご賛同の上、ご参加ください。

チャタム・ハウス・ルール :

「会議で得た情報を参加者は自由に使用してもよいが、発言者及びその他の参加者の身元・所属団体は明かしてはならない」というルール。国際会議等の場で率直な議論を促すために多く用いられている。

□本勉強会へご参加いただいた皆様に、YGN 活動 (勉強会や見学会のご案内など) のメールマガジンを配信させていただきます。

【ご紹介】

<若手連絡会とは>

日本原子力学会 若手連絡会は、原子力に携わる若手世代間の連携を強めることで、若手が本来持つ活力を引き出し、その専門性や能力を高める活動を行っています。この活動を通し、原子力全体の活性化を図り、原子力技術の発展、原子力に関する諸問題の解決、

そのために必要となる新たな若手の育成に貢献することを目的としています。原子力の専門性を活かし、国・機関を超えた若手の連携によって社会へ貢献すべく、ネットワークの拡充強化を図っていきます。

ホームページ：<http://www.aesj-ygn.org/>

<YGN 若手勉強会とは>

日常業務に捉われない自己研鑽、分野や所属を超えた繋がりのお機会創出のため、2016年10月より継続的に開催しております。

第1回	「もんじゅを見つめ直す」	2016年	10月
第2回	「次世代炉開発に向けて考慮すべきことは何か？」	2017年	2月
第3回	「原子力の将来とイノベーション」	2017年	4月
第4回	「次世代小型モジュラー炉:シンプルで安全、そして経済的な選択肢」	2017年	10月
第5回	「安全神話とは何か。私たちは本当に安全神話に囚われていたのか。」	2017年	11月
第6回	「原子力安全と自治体行政：福井県の経験から」	2018年	2月
第7回	「原子力プラント建設の技術継承」	2018年	5月
第8回	「著者と語る『日本の原子力外交－資源小国70年の苦闘』」	2018年	7月
第9回	「国際協力・海外進出の現状と今後」	2018年	12月
第10回	「放射線問題と国連 ～2つの『国連』報告を読み解く～」	2019年	1月
第11回	「原子力プラント建設の技術継承②」	2019年	5月
第12回	「原子力防災に携わる。ー現場から研究室、そして現場へー」	2019年	9月
第13回	「脱炭素化、イノベーション、原子力の役割」	2019年	11月
第14回	「宇宙探査における原子力利用」	2020年	9月
第15回	「高速炉サイクル若手座談会～高速炉サイクルは何処へ～」	2020年	12月
第16回	「気候変動問題入門：なぜ『カーボンニュートラル』を目指すのか？」	2021年	1月
第17回	「核融合の早期実現という破壊的イノベーション」	2021年	6月
第18回	「2030年温室効果ガス46%削減目標の達成は可能か？」	2021年	6月
第19回	「メディアを知る」	2021年	6月
第20回	「OECD/NEAで働く若手日本人職員に聞く。」	2021年	8月
第21回	「電力システムの概要とカーボンニュートラルに向けた課題」	2021年	9月
第22回	「理科教育のプロに聞く。義務教育で放射線は教えられるのか？」	2021年	9月
第23回	「医療・生命科学に貢献する原子炉の役割。ー新たな試験研究炉がもたらす産業イノベーションの可能性ー」	2021年	9月
第24回	「米国から見た日本の原子力」	2021年	12月
第25回	「健全な「核燃料サイクル」に必要なものとは何だろう」	2022年	2月
第26回	「自身で将来の原子力産業を予測する！！～新型「核燃料サイクルシミュレータ」で定量的に議論～」	2022年	3月
第27回	「海に浮かぶ 原子力発電所～イノベティブな検討による1F事故の反省を踏まえた原子力システム～」	2022年	6月

以上

